

スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価結果

大 学 名	長岡技術科学大学
整理番号	B04
構 想 名	グローバル社会を牽引する実践的技術者育成プログラム ～グローバル産学官融合キャンパス構築～

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント)	
<p>本構想は、日本経済のグローバル化への対応を目指し、世界を牽引する次世代の戦略的地域との強固なネットワークを形成し、学内組織や教育課程の国際化対応の推進により実践的グローバル技術者教育の先導を推進する取組である。</p> <p>長年に渡る企業との共同研究を基盤として、高等専門学校—技術科学大学モデルを海外拠点校に展開する「GIGAKU（技学）教育ネットワーク」と、産学連携モデルを日本企業の戦略的海外拠点に展開する「GIGAKU テクノパークネットワーク」を通じて「産学官融合キャンパス」を構築しようという取組は、教育・研究や産学連携の現場で育まれる多様な機会をうまく捉えることで着実な成果を挙げている。また、地域産業の国際進出支援等にも貢献するとともに、当初の構想を越えて UNITWIN/UNESCO Chair 等の活用を進めている点は評価出来る。</p> <p>一方で、世界経済の構造の急速な変化や留学生の多様化が進む中で、本プロジェクトが主眼とする日系企業の国際展開との連携に留まらない、より幅広い海外の企業との連携や関係作りを視野に入れていくことが望まれる。そのためには、当初の目標に達していない学部段階での英語による授業の提供や、大学院教育段階での英語能力の向上等について、実際の授業の中で行われている日英二言語対応等の実態も踏まえた取組状況を再度整理し、方針・計画を明確にした上で着実に実行することが必要である。</p> <p>国際組織整備及び大学組織制度改革に関しては、経営協議会への国際経験豊かな委員の就任や教員組織の改組等が進められているものの、意思決定機関等への外国人の参画を促進する観点からも、計画されている国際経営協議会、国際技学教育認証委員会それぞれの設置等の取組の着実な実行と充実を期待したい。また、外国籍教員の割合についても数値目標を大幅に下回っていることから、当初の計画に沿った取組の強化が望まれる。</p>	